教育委員会企画 P

知ってほしい，始めてほしい「医学教育研究」
～日々の教育活動が研究になる～

産婦人科の教育分野では研究業績が少ないのが現状であるが，その理由は多忙な日常に原因がある一方で，われわれ産婦人科医が，そもそも教育研究とは何かを知らないことも大きな要因であろう．臨床，研究と並んで教育も指導者にとっては多大な時間と労力を要する分野であり，十分評価に値する業務であるが，医師の働き方改革という新たな局面において，時代に即したより効果的な産婦人科教育について討論することは重要である．そこで，教育研究に対する意識の変革，取り組みの契機となるような企画にしたいと考え，2人の教育専門家からご講演いただく．

「働き方改革と医学教育研究の両立を目指して」

2024 年 4 月より医師の働き方について時間外労働の上限規制が始まる．その影響は多方面にわたると考えられ，2023 年時点の調査において，全国の大学病院の助教が研究に割く時間は著しく少ないという報告もある．労働時間を短縮すること，自己研鑽と労働時間を明確に区分けすることが求められる中で，診療以外の用務すなわち教育や研究に割くエフォートが切り詰められることは容易に想像でき，現時点からその影響が出始めている．大学病院のみならず，どのような規模の医療機関でも同様の課題に直面しているのではないだろうか．しかし，長い目で見て，このことは我が国の臨床・研究の発展に重大な影響を及ぼしかねない．我々は働き方改革を進めるとともに教育・研究の質と量をいかに担保するかを真剣に考えなければならない局面にきている．このことには様々な解決方法が考えられ，そのキーワードはタスクシェア，タスクシフティングである．メディカルクラークや特定技能を身に着けた看護師の活躍や一層の多職種連携が期待されている．また，学生や新たな専門職の活躍も期待される．診療参加型実習において学生がより高いレベルで診療参加できるようになれば，医療チームとして学生の能力を診療に活かすことができるようになる．また，臨床研究をサポートする部門の役割や診療看護師なども活躍の場が広がっている．これらの現状を踏まえた課題と今後の展望について述べたい．

「学部学生でも“うまくやれば”できる，教育と研究を融合する効率的な医学教育研究手法」

医学教育の受け手である医学生でも十分に彼らの興味に基づいて原著論文を発表することができる．今回は，筆者が特に注目し，医学生達を巻きこみ実施してきた四つの分野に絞ってみる．第一には AI 技術との協働の必要性である．医療分野での AI の進展は著しく，これを教育プログラムに統合することで，学生たちの学習効果を向上させていかなければならない．第二の課題は，“いかに教員の負担を軽減するか”である．教育の質を保ちながら，教員の業務を効率化し，適切なワークライフバランスを実現することは急務だ．ここで，“引き算の教育”の概念が重要となる．第三には，ジェンダー問題への対応が求められる．わが国では焦点を当てられることが乏しかった多様な性別の学生や教員が公平に扱われ，同等の教育機会を享受できる環境を作ることが不可欠であり，特に女子医学生が不安を抱える課題でもある．最後に，医師としてのプロフェッショナリズムと共感性教育の重要性である．特に，共感性の育成に焦点を当てることで，初学者にも患者中心のケアを教育していかしなければならない．これらの医学教育上の課題にたいして，どのように医学部学

生に対して研究活動を効率・効果的に教え，成果をあげてきたかについて具体的な手法を交えつつ持論を展開する．